



書真任志又金行

あはれもはるけ
けりひのり新し
き流りま上の文
り身ハ老者のれり

思逢 彦 好

A13
4439
4



A13
4439
4

加之久全傳香篁州卷之四

江東

梅暮里谷峩著



第十二

小雪又の年小殺る段

話説は拱津國西の宮の御神と天祖とゆめのおん子。蛭子の命の大神かゝる。

守取得幸

市守買得幸

田守種得幸

軍守戰得幸

朝守事得幸

都て富るりと司神も是ハ世俗ハ十日得義柄と稱へて。正月十日と祭日とうりとも。四季を分るごとく諸國より人群詣へ。吉兆縁起次第の品と出る過活の多し。中ハ破是桐油とよみ狸ハ野原と住家とあり。嵐寒少ゆめがざる首惡



口久全傳香篁州

道の街より出づ。往來の人小附丸馬小乗り。籃輿小困倦を休
 めりてやとす。むも。日輪も西山へ傾きりれば。人足さへ
 ぬ。礎人籃輿の者ホも。よの渡世の果なりぬ。霧の
 あり免寒さを凌ぎ。野における酒壘のま。炯め。酒汲ふと
 その如へ。小雪の母の如く。情づれば。朝も夕も不邪見を
 恨む。琵琶の如く。合カつけ。影く根津國の地へ入り
 ぬ。まの笑小逢人を樂とふ。まのりある地。西の宮。人集ひ
 居る。紙耳。まのり。近より。まのり。旅の。財へ。居る者
 ろれど。人の情。まのり。食。まのり。由。まのり。悲。まのり。
 難波と。まのり。程。近。く。閑。まのり。今宵。まのり。な。まのり。
 聖の日。まのり。昔。まのり。由。話。まのり。人。群。集。ひ。在。

まのり。歴。まのり。一。孔。つ。の。憐。まのり。と。垂。まのり。や。まのり。の。紙。まのり。
 礎人。籃。輿。昇。木。眼。と。足。や。の。微笑。まのり。一。位。の。男。進。まのり。
 ち。瞽。女。まのり。お。まのり。まのり。琵琶。まのり。坐。まのり。平。家。一。句。二。句。を。弾。まのり。
 足。まのり。酒。真。まのり。まのり。の。まのり。まのり。まのり。万。面。小。珠。まのり。まのり。まのり。
 如。く。小。醉。まのり。まのり。男。言。語。まのり。まのり。まのり。癖。まのり。まのり。まのり。まのり。
 その。花。登。弾。まのり。まのり。まのり。まのり。まのり。まのり。まのり。まのり。まのり。まのり。
 と。投。へ。熟。小。雪。か。顔。を。見。まのり。まのり。二。八。まのり。まのり。まのり。まのり。まのり。
 顔。美。麗。まのり。まのり。まのり。まのり。まのり。まのり。まのり。まのり。まのり。まのり。
 了。筒。まのり。まのり。今。宵。腰。まのり。まのり。温。め。まのり。まのり。暖。め。まのり。まのり。まのり。
 の。情。まのり。まのり。流。涙。まのり。まのり。目。も。明。まのり。まのり。まのり。まのり。まのり。まのり。
 ん。まのり。まのり。小。雪。紙。まのり。まのり。理。まのり。まのり。小。膝。の。上。へ。引。まのり。まのり。まのり。

ろをては。すゝ一位の男とて紙隔。まんぢんろりの楽しと
 させり。流森多ととも近く。鄙も熟し。るるど業ハ
 まめ見物よるる人。瞽女の舞一真あふ人。所吊く。と口く
 小高声ふ責められ。小雪ハ溢る。候え。吞む。心。咽
 けし。つら。つら。熱せ。れども。琵琶弾。よ。ハ。習。由。せ。が。鄙
 小育ち。つる。つる。ハ。ある。ま。ハ。舞。と。や。人。と。見。由。く。る。り。り。も
 ろ。死。賤。さ。牙。の。從。令。え。り。り。あり。一。逆。生。が。ひ。も。た。れ。この
 盲目。路。行。と。死。え。探。り。定。ま。ど。く。舞。する。の。あ。る。べ。さ。む。又
 係。卧。の。物。と。や。人。の。お。そ。ろ。ろ。く。三。年。あ。る。く。母。え。う。く。
 一ッ。食。え。藤。由。せ。ぬ。小。野。よ。卧。山。小。藤。も。更。つ。と。せ。ト。
 ち。れ。く。と。よ。く。琵琶。弾。よ。小。佛。んと。半。と。毎。琵琶。を。取。り

り。で。ま。も。左。右。一。よ。る。人。と。琵琶。を。わ。く。く。く。ひ。退。後。て
 か。ま。く。く。撞。鳴。と。と。

ね。ぬ。一。あ。さ。の。月。ハ。東。の。ゆ。と。り。なり。ま。ん。ぢ。ん。ぢ。ん。ぢ。
 閑。ふ。一。て。振。ね。の。厚。の。ま。れ。高。り。涙。と。あ。そ。ひ。て。は。物。の
 こそ。か。り。ま。き。ら。か。つ。ば。下。も。か。げ。え。れ。故。入。道。相。國。の
 作。り。を。ま。き。振。ハ。福。系。の。ま。ま。を。見。ぬ。あ。よ。ま。い。れ。も。た。ん。の。置。の
 沖。所。社。ハ。月。見。の。漢。の。沖。所。ハ。も。成。松。が。け。馬。場。成。二。三
 の。ご。き。殿。さ。る。人。の。沖。所。か。や。の。沖。所。人。の。こ。ろ。も。も。も。も。も。
 の。大。徳。を。用。つ。み。や。の。ま。り。け。り。と。ま。し。ん。せ。れ。り。雲。霞。夜
 を。の。か。つ。ま。の。い。だ。ま。い。ほ。と。も。く。み。と。も。を。花。め。め。も
 こと。ま。り。り。若。道。を。ま。ま。れ。秋。の。名。門。を。用。ら。る。ふ。花。を。ひ

口。大。徳。を。用。つ。み。や。の。ま。り。け。り。と。ま。し。ん。せ。れ。り。雲。霞。夜

陣仕舞。琵琶も俣可ららとく。向ふ小亮も目音の裏中
 轉顛倒つ。逃退ると。又公の裏はあぐ。刁頑等々の行く
 先へまふさがる。汝音月の身をりりく。とれくを方便逃ん
 との膳太さ女の童と。襟髪川 掴まらる。首小掛まらる
 りの尻早くゆえつけ。よろこび眺しと。たす舞しめゆせま
 一。流深ゆさせまらる。汝が首小けける。袂の釣りける
 を試しる。黄金一百両ふさ死する重実。とれくが目ふ
 留られぬ。鯨のえ入まらる。舩はゆとく。とれく舟を震
 傷りといひる。とれく。まづは耳りさがること。前後左
 右は取巻さ。小雪を投へ腰へ手とさへ入まらる。引出さ。綿
 の裏金ふあどどと不審と死。腕の喜三郎ハ人を背負

て價を得難波へと過るおろ。一位の小女を野の男子。の
 くらよる。の便りかりひ。強を折き弱き助る性まきど。
 何れゆり。忍ぶべ死。一位兩位をさる。投のけ。撲地と白眼。
 汝木まら。一位の少女を取らる。道まら。ぬ悪工と。
 腕の喜三郎が目小遮る。自由まら。自由まら。自由まら。少女
 小代。アツか。尻腕の不逞。ありまら。相手ふまら。てん糸
 べいと。少女を。形勢小。喜三郎と。さる。さる。さる。手
 並小。臆る。尻腕の聾。重くの時人と争ふ。怪我まら
 る。さ。這うの耻辱まら。殊よ金ふあど。さる。さる。棄
 退まら。と。謚さ合。何れへ。逃退る。喜三郎ハ少女
 の側へまら。て。位入。尻を。さる。さる。刁頑ハ。逃まら。

紗巾さきんやとくあまべと。夜よの塵ちりうらちりひ綿わたの囊ふくろ腰こしへ
 治し定ぢやうと押お入いま。あつと羊ひつね先まへよあつと紙かみえまば。金かねあひあつ
 て硯すずりの形かたち胸むねはたりこえとけまば。金かねとあひひ一いつ道みち中ちゆうの
 正ただしく視みりくと尋たづねの品しなみりやと。りる詞ことばはたく小こ雪ゆき
 中ちゆうも難たがひのあつんとふりひ。振ち敷しきくまままと。中ちゆう待まちまま
 うれへ怖おそるりのあつらだだ。あん身みの肌よははけらととと。才さい頑がん
 等らか金かねとあひひ。己おのれは危あやうらるを。由よしりまくも私わがうりて。あん
 身みの難たがひを救すくへゆ。毛けもも汚よごるらる縁一いつまれ。さればとといま
 思おもうま紙かみ言ことももあらずら。小ちゆう臣しんか一ツの致ちかすひままの心を探
 るよ正ただしく視み。廣ひろく浮世うきよふ似るらるもままとといまるら。硯すずり
 のりりり一いつ位いちままらば。二ふた位いち三さん位いちの身みりりり。いまはは諒しょう美み乃の

真ま最さい中ちゆうまれば。一いつ目めももあらずら。このかいを安
 志しめよ。黄わう金こんももあらずら。負まがいくてはままとといまるられど。
 このままもも名な糸いとまま心こころ腕うでの花花はな三さん郎らうとと。あの根ね津つ岡おか一いつ
 人ひとの志志しりりる数の中中ちゆう。賤せんしん知ちるりこのまま。斯かくしんが
 ととととえびままらばのまれま色いろはは胡こ做せ者しやともあらずらんが。
 名な紙かみあらずらとといまるら。非ひ道みちまま道みちのあのまらん。えんせんとといま
 品しなももあらずらけまとと。難たがひを救ひて報むかひとももあらずらんが。
 ちちととけまとといまるら。聞きこえるら。輕かろ小こ雪ゆきの難難たがひとといまるら。
 搦なりくとと。怖おそるら紙かみ忍しのべひるら。危あや急きゆうの難難たがひとといまるら。
 あのひひ一いつおん身みの憑憑よとと。余よ外とあらずらるら。あの心こころとといまるら。
 悲かなしん話わのありらるら。何なにをはくまとといまるら。伯はく

者の小濱あり。親あり子と母人と。たつと兩位ひて世
 りの父よりありるが。負し親暮しは是非ありも。そ
 が恰三ツの時。國を放逐。因幡法海の渡中。印南園太
 衛門といふ人の家。僮とあり。名を袖助といふもの。奉
 小出のひてより。國へといひて。一トも。めり。来ませし。とも
 多。父は達し。むくか。積り。くく。この目音。母人の艱ひし。
 不自由も。あつ。ざり。しが。操由。堅き。日頃。も。習り。如何なる
 天魔の所為。も。あり。ん。乳兄弟。と。や。らん。い。る。人。尋ね。来
 ま。る。其。日。より。父。の。薄。情。を。責。算。太。兵。と。や。り。
 牙。を。任。せ。る。う。う。う。の。其。汝。由。愛。め。の。並。難。し。父。の。う。之。尋
 行。と。あ。ら。く。追。出。さ。る。ま。が。詮。さ。る。く。七。種。の。宝。を。

め。他。ア。る。家。中。由。遙。お。さ。り。し。と。思。ひ。ら。せ。し。芽。舎。を。
 と。ど。く。出。る。と。の。時。小。母。人。も。呼。戻。し。征。人。より。頼。り。し。る。
 這。品。由。公。智。且。バ。頼。り。お。く。由。様。多。う。二。ツ。あ。る。公。智。り。し。
 表。證。ふ。せ。よ。父。の。大。切。の。品。多。れ。バ。何。と。人。か。と。い。ふ。と。も。
 必。ど。見。せ。せ。と。父。は。よ。半。渡。し。せ。よ。と。異。く。小。母。人。の。い。ひ。つ。け
 由。急。深。き。縁。故。の。あ。る。品。と。思。は。れ。ば。よ。由。見。せ。せ。と。く。を。や。路
 法。由。短。近。さ。の。攝。津。國。の。難。波。と。や。よ。仮。任。居。し。と
 在。と。る。れ。バ。父。は。不。難。と。渡。さ。せ。り。あ。る。ま。や。薄。命
 続。く。と。の。う。ら。か。も。よ。ま。り。の。あ。る。悪。日。を。命。の。領。の。あ。る。
 危。さ。も。お。ん。身。の。ま。ま。け。よ。ま。ま。間。由。ま。よ。と。め。小。ま。ま。と。教
 お。り。ひ。ま。れ。も。ま。ま。と。伏。洋。の。半。次。三。郎。の。左。右

ふちちひ。ちや小女目育てあれは見えまられど。合掌
るまのつらがるり。伏拜と尋ね祝のりゆへぬ。されど
主家縁家の云々の。あつて言詰り。尋ねられぬ。夜毎由
いづく森もや。毎日の食も忘る。おひ。后時由公
尋ねる。尋ね捜せど今も。手かりあるを悔ると
おん身所持のその。祝儀でも祝儀ぬ品もあま。ま
改めえ。とくも。実否を極る。とまふ。至る。とくも。囊の
損振も。ついで。いよりの。綿。り。と。尋ね。神石も。と。
おん。見え。ふ。の。安。れ。ど。も。人。乃
大。の。一。品。を。送。ら。る。を。手。か。か。る。か。お。の。主。人。の。為。ま。ら。
る。と。と。業。も。皆。悉。盗。賊。も。傍。ら。んと。愧。る。ゆ。り。彼。是。

と。い。ろ。の。れ。も。う。ろ。と。同。分。ち。只。一。下。目。え。せ。く。よ。と。再
三。と。い。小。雪。ハ。今。更。回。答。え。は。う。外。の。り。せ。ら。れ。や。
ありて。顔。を。あ。げ。は。が。つ。よ。説。き。を。受。く。も。非。道。と。も。い。ひ
せ。え。せ。も。な。り。と。い。の。ま。れ。ど。り。や。お。ん。身。の。尋。ね。れ
品。も。似。て。あ。ら。ば。其。後。も。返。し。ま。ま。ど。く。され。ば。容。易。く
え。せ。く。う。も。身。別。り。て。え。家。ゆ。ら。る。女。子。と。い。ひ。か。る
時。人。の。目。育。の。身。に。伯。耆。を。玉。ぐ。這。移。深。尋。ね。吟。呻。艱。難
も。父。と。よ。達。を。か。よ。た。ど。り。と。申。の。種。の。の。現。る。と。い
る。と。ね。大。の。の。表。澄。ら。る。取。り。取。り。時。を。生。て。由。死
ち。の。つ。と。悲。し。も。と。い。と。行。先。ら。と。い
目。育。の。危。し。と。進。退。と。探。足。と。い。と。声。ら。と。い。と。

目育の危しと進退と探足と声らと

中細を流しあり。踏らるる怪家と云ふ。惻隠羞悪の
 備る男子小女の心を推量す。目も不自由の刃を持て逃れ
 退下人と走るる。これを鬼と鬼神とも。さぞ怖
 まる生る中ゆめあつた。あつたぬちあつた。あつた
 けりあつた。改め見らる主人の為衆令尋ねる
 品もあつた。筋道立ど取戻れ。非道のさへあつた。さ
 め黄金は換るる。あつた。今アが身あつた。野あつた。あ
 ねは残り。一位の阿女弄る。衆もあつた。年紀その阿
 女を活る。て由黄金調ひよあつた。さアアアアアアアアア
 目音の子アが身あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 同士親子一世の使羅道と。天由衣是と感と。あつた。あつた。あ
 天

かれ曇る。俄に雨の降る。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 雪は探りく。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 腰中へ手を突入。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 助けとよと叫べど。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 方へ持び。此方へ倒れ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 叙を胸えへ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 門とひひと倒る。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 駭き。此れ彼れ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 のこごの甲斐。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 かと。高き。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 気は息吹。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 俱は天晴。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 照る。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ



其二

かた久巻四

かた久巻四

首くび小こ切きりし紐ひもを解とき。ちや公こうをたたりし持もて。ままにけ
るらぬぬちちええはは文ぶんありりぬぬ間まははかかりりぬぬ非ひ道どう堪かん忍にんせせよよちちとと摺すり
摩まさるる。小こ雪ゆきははちちのの手てはは取と追おひひ。息いき由よし絶たええよよちちやや後ご又また全ぜん。
一い度どもも息いきをを吹ふ返かえせせりりかかららのの苦くるししささぐぐのの活いれれとといいふふのの
るる紙かみををけけりりぬぬ憑よりりとともも。前まへちち由よし説とききああららとと如ごとくく又またううらら乃なり
大おほ切きのの品しなととすす。二ふたツつああららぬぬ廻めぐりり逢あひひ逢あひひ表あら澄てい也や。ええんんちちのの非ひ道どうててああららとと
とと恨うらむむゆゆももううららくくるる。皆みな前まへ世せ因いん果がのの做しとと亦また人ひとのの数かず
ああちち連つるるぬぬ生なままま由よしははららぬぬ時とき人ひとととああらら。微い運いんののりりととたたらら乃なり
牙はののううららふふ。斯かく死しととももああららふふとといいふふ。ももららふふかか死しししららるる
そのそのううららふふ。ええんん牙はのの方かたのの似によよりりののああららふふああららふふ。一いええん

又また袖そで助すけへへ手て渡わたししるる。ささららぬぬ銀ぎんひひ玉たまのの又またええんんちち義ぎ気きあるる
者ものとと笑わらふふ。ああららふふ由よし固かた辞じとといいふふににけけはは。かかららひひああららふふ鐘かね
合あひひ。言こと置おききししぬぬ数かずもも。石いしかかららのの息いき切きはは。いいららふふささららふふ由よし
是こゝ限かぎりり。ささららぬぬ程ほどとと怖おそれれ。今いま更またもも慕あこむむ。後ご又また
ううららふふ。未ま期きのの願ねがひひをを聞きてて。愁なみだひひててよよとと伏うつ拜ぱいむむ。ああららふふとと
いいくく。身みのの言こと活いちち由よし通とじじぬぬ悲かなしし。ああららふふとといいふふ。便べんららふふとと
ああららふふ。いいづづ地ちのの者ものああららふふ祝いわいいのの光あかり景かげををええんんららふふ。ああららふふとといいふふ。溢あふるる
泪なみだとと袖そでをを拭ぬぐひひ。ちちやや小こ女め息いき苦くる。ええんんちち言ことひひもも。我われととううららふふとといいふふ。
るるららふふ。けけははとと。校まめめりりてて生なままま由よしははららぬぬ。聾ふんがととああららふふ。ええんんちち
のの述のりるる。操うりりもも。露つゆちちりり由よしああららふふ。何なにとといいふふとと詮せんららふふ。ああららふふとといいふふ。
そのその苦くるしし。ああららふふ。活いちち由よしああららふふ。片かた息いきののせせ免めんとといいふふ。言こと祝いわいい。

ど。何の應ゆるる光景。ちや小雪氣をほけよ。かを
 たしよりりべしと。押動しえくけき。かや貝る死
 さまの虫の息。轟三郎も潜れと。ちや阿女。又り達
 ちを子孫びと。かちもそく死するあや。いま些るど活
 く。吳是。手荒くせしとんあまざれど。團を隔く慕ひ来り。
 その甲斐ゆる死又の手よ。殺されよ来しや。便る死その。
 聾る牙の言るの。受へぬの因果づく。目盲る汝より。
 遙方より。こが牙るれ。ちや位卧し取乱と。ちや小雪の
 息絶けき。位く首よ掛る硯の袋。手よそりあげ
 改めえりよ。受しよ似よりの硯ごと。おりの袋の中より
 も。妻よりりの手。位の一。書並くりりと墨黒よ。忍免

あまは再び駿馬の月の境のあやあく。小衣をを増せと
 照りこする。文字もさやろ小写し流む。牙を捨りしを
 像む。懶とやうんり。太兵とよる乳兄弟。その硯を所
 持るせ。あよこそ。その牙をまらせ。方便よりし。あめより。
 小雪か目盲とるる。マケ。かちああぬる。紙ひひ。硯と俱り
 最愛とちり。阿女の小雪。渡えんま。ちや荒く。家を追ひ
 出しその。位ち。征人の為。い。ちや操を破りし。其罪を。自
 害ち。言魂との。ちやあ。世より。ちやめある。を流る。ちや
 る。紙熱傷のり。ちやあ。ちや文。ト。ちや小雪か。骸ち。ちや家へ連れ
 行く。何れの。積舎。ちや由。ちや神硯を。首よりけ。小雪を
 小服よ。搔ち。ちや。ちや。ちや。ちや。

第十三 太兵衛と再び懸想する段

張附も禽獸中本と画さうく。一ト間の名と云。又けり
 襦の間の花簾よいと公も浮らり。夏も庭の本
 立よ異と隔冬簾の黒方。馥とく間毎小使也。登
 の雪夜の雨よ。臥房の静けりと。四季おくの奥もそ
 るんと。且眼を驚う。且目と姦ばらむの狂樂七情を破
 の地るり。角く左仲次も。トしか此花街よ戯き女とるり
 て生と。夢出せしより。膽太き男子るれば。太兵衛と名
 と改め。貞と智を積るおりひ由解べたと死と。日毎
 夜毎よ通へども。万客山とるり。空しく家は帰るり

と。卧とるり。眼む。夕の夜障るれとあり。角紙白
 龍次郎八と。トしか兄次本長庵を汁連き。揚屋よ
 入る黄金おし。とるり。時れ散らせ。善女。一美を
 一。餐食良時。とるり。と。末づれ由見えど。不興気
 よええり。ま。ま。卧房よ。ち。由。奥も。人。行。つ。ら。を
 花も。と。め。と。次郎八が薦め。太兵衛。トしか全盛。と。り
 姦。と。り。と。ど。由。絵。と。る。り。教。母。の。人。よ。誘。き。夜。と。り
 間。へ。が。り。獨。侘。し。ら。よ。待。ぬ。ま。は。剛。く。ト。し。と。太。兵。衛。が。卧
 房。よ。入。り。り。る。へ。お。ん。身。と。び。く。通。ひ。来。ま。と。り。け。り。と。
 教。母。と。ぬ。ら。の。身。も。り。る。幸。也。現。る。れ。客。の。教。母。成
 由。り。る。く。由。疎。遠。よ。と。り。お。り。れ。今。宵。由。あ。や。み。く。よ。

瘠し時を費し。遅くし紙と。四方八方の活とある。太兵が
 太兵が声音。左仲次よ家威はされば。妙くひびく。死
 身行死の者も。さざりりつらつらと暮し。空し夜中
 由妙よとめど。日とくね夜を撰まど通ひ妙人紅根の
 色もあつらふさめらんよ。習ね今宵の僥倖と笑ま
 同しと回れば。左仲次も既よ身の人と言あると
 可し。偶妙よおりくる。女子もくも世紙。忍ぶ身の本名
 うら明く死と。在下の当國よ。住る雜器家太兵とひる
 りのる。おん身よの柳巻よ全蓋るる。四方よ溢れ。
 えぬ煮よ浮岩。雨の降夜も風の夜も。九十九よ近き
 通ひ妙の。彼少將もあつらめや。こが妙紙家世よと。し

ようちめられ。し戻風を搔やり。灯火よ太兵か面を
 あつらえ。しつらひがおりよ遠ひる。左仲次のぬしやと憤
 怒の気色。あつらるまじ。ちやし。誤りく人あつらひたると
 まく。これち雜器家太兵といひ。襪襪の中より
 の團よ追育つ。あつらるまじ。これち同胞より。面
 倅よまぐ。兄左仲次よ似る。あつら。こが兄の先。年。非
 命よ死るを。つらと。残し。あつら。傷り。しひけま。些し。く
 ちを惑し。免まれ。角まれ。神石を尋ね。小ち。死。辛。か。り
 と。妙よ。あ。り。ひ。傷。り。り。る。ひ。左。仲。次。と。り。る。人。先。の。年。妻
 か。方。よ。か。り。ひ。妙。ひ。し。か。行。如。の。者。と。も。妙。定。め。ど。夜。毎
 夜。毎。よ。深。卧。の。睡。と。言。あ。つ。ら。妙。の。色。毎。よ。お。け。る。家。と。も

志らくぞく今一トとび。えり一ええりとおかひひしものも
 根る一州都と托女の身の方くま。浮雲流水の契り
 あく。まことおのり人まきりくま。朝の誓ひ夕
 よかひるま為若の世果。似る人こそその人と。おの底
 由らうあけん。とおの心を押さぐむも。戯女と賤し
 るの口情く。意気地たる由廓のるくひ。おん身の
 寸丹え振るぶるその中の口賢く惑くま。おの
 随りま。いと。床し死顔は太兵衛まお有頂天おん身
 のりるもその理るれよあつざれど。托び女の身の行ひ
 へ。枕重ね。うのるこそ。全盛といひつゞき。何地の者とも
 定るるるるその人よ。操立たる身まあつと。そを

木地の女子の道。今宵のれ黄金よ贖ひかれらるる
 身多れば。こがゆ又随へん。いぞ藤んといひけは。今
 應も益多し。と。途出と改り。太兵衛追つた。と。し
 が裾を治定と踏て口鏡る。誓ひをり。せられ。長庵も
 まり出。太兵衛をまがく。いと免る。し。幼少うと別
 是。ゆえ。え忘はゆた。つらんか。これま。汝か兄。淡本長
 庵る。嚮ふの始末。向方る。紙門。祥。は。西。居る。
 兄る。親る。此。長。庵。か。免。せば。お。並。多。く。太。兵。衛。の。ぬ。
 と。個。惚。へ。六。三。郎。と。や。らん。操。立。る。を。と。も。妻。と。し
 汝と托女と活るを甲斐多れり。これ盟く夫婦と
 させ。太兵衛のぬのの。おの。後。は。随。ふ。と。れ。も。花。街。の。苦。患。も

おん身の實よ良薬と服用する。由ひ。従ふく快氣の
盡びよ。つらつら一日。小臣と近く招給。以奉腹の痛
びや。這おん見料と下。賜マ其夜のうらひがたへ
る。亡命する。あひ。あふふあふまねかりひあ。四方
へ走ると空を雁の尋ねりの。さるあ。由言款。ハ
自教ともおひひ立。一が犬死と做えんと。公と替く世
渡る業と。はけよ。角能と刑と。人立。尋さ地所へ
入。込。尋ま。今。行方。安さ。公の
ゆへ。今宵。下官。ふ。ふ。ふ。へ。見
合せ。密よ。商。由。太兵。情。は
を。肝。要。れ。と。眼。を。行。状。

樓上と深房へ。行ぬ。這。並。頃。日。か。ま。の。び
密印。南六三郎。人志。通。夜。毎。の。睦。と。言。あ
へ。左。万。一。由。言。述。と。両。位。か。中。の。一
子。六。之。助。世。名。由。禿。の。吉。弥。し。か。側。は。追。月
ま。ハ。兩。位。か。間。へ。並。と。蝶。よ。花。よ。と。最。愛。も。ナ。ヤ。ク
硯。と。手。よ。入。ま。よ。と。以。言。の。紫。由。曉。の。障。の。誓。言。告。告
の。啼。よ。怕。ま。名。残。と。惜。し。と。別。れ。時。ハ。四。更。よ。来。り。と。五
更。よ。退。る。と。の。面。影。の。色。青。と。め。と。月。額。いと。長。く。延。び
ぬ。ま。バ。這。世。の。人。と。も。又。え。さ。り。り。し。由。誇。り。そ。と。ま。ま
由。何。一。つ。由。ひ。述。と。別。れ。と。臨。る。の。尋。く。妻。子
よ。浮。岩。つ。つ。亡。魂。と。由。誓。ま。と。な。れ。バ。絶。く。久。く。死。對。目。の

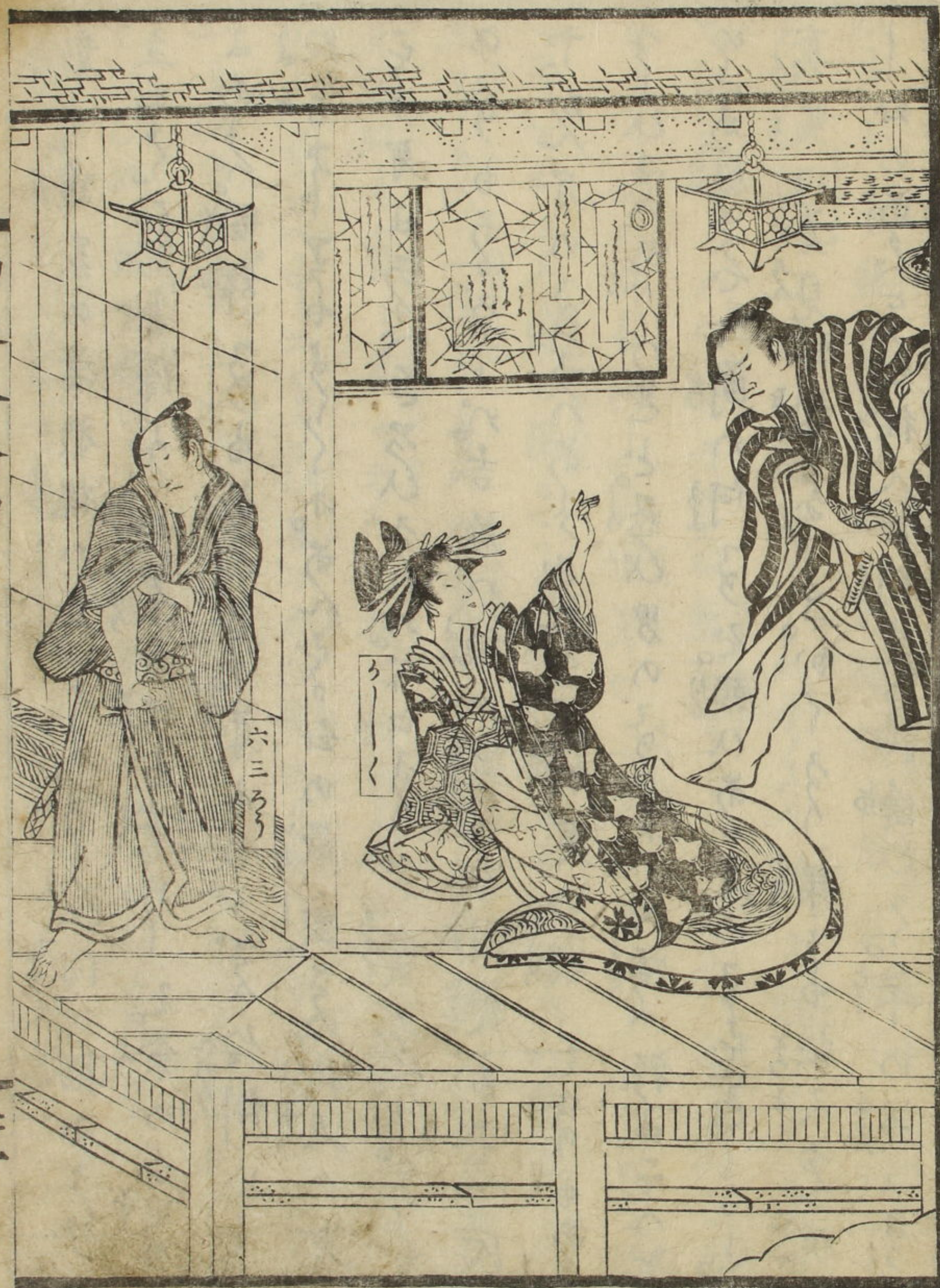
口久米四
七二

夜毎疾る身よありとくも。せえく臥房よまをぐと。
時と言ふど口でまど。公休せゆめぐまよ。とくのかある
百分一。男子の公の先強さを。託恨めどその後。さへて
音耗るるる。しひ明昏やとくぬる。不待候ぬ。

第十四 小園が紀念おろの段。

削て福鳥や清兵衛が家おの。野のむ女を抱き。活買と
るを者お似げま。憐れ候く。中おゆりる。縁一あや。
しとを勞ると尋度よ倍ま。しひ此頃六三郎が音耗る
る候との人と待。まよと候。想ひくの病ひの床。如今
食さうとけま。飛吉おとあんとて。しひ側へひと
う。ち母まのあぬ。しひま。其およとく。飯由す

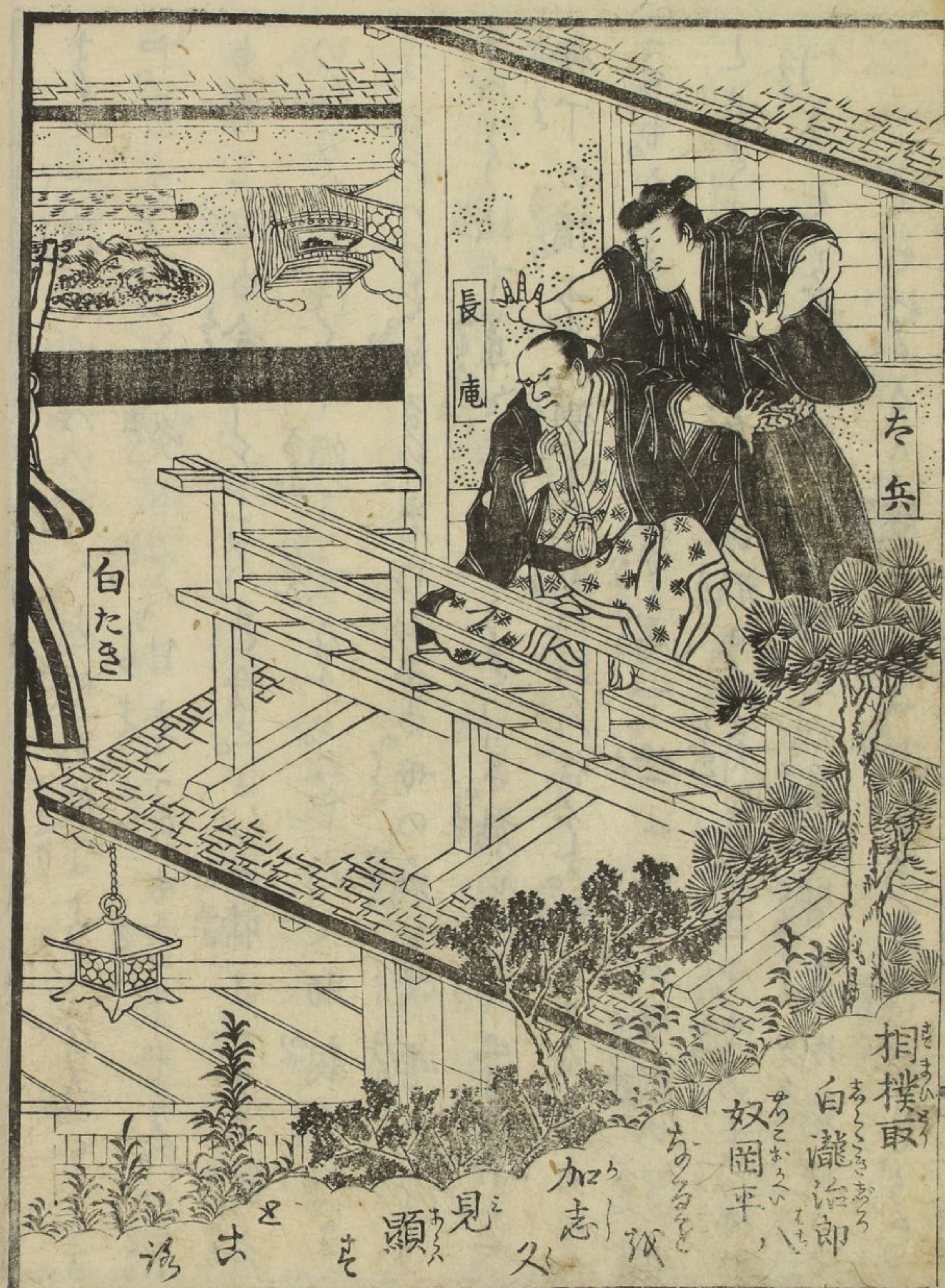
ちと吳丹とり。バツと。竹を使よ。うたなりて下る
や。そらう。しひの灸よと。甘辛る。ゆ言中。おれ。茶
由吞。飯由食。しひのま。母と。しひか膝よ。とく。取付
いひる。顔は。しひ。涙る。ち六。支助。親る。れ。ま。
子る。れ。ば。ら。と。知る。れ。者。の。お。ふ。由。母。の。病。を。苦。勞。お。た。す。
ま。は。り。飯。や。茶。を。ま。む。る。ま。は。り。結。ひ。ひ。と。ま。は。り。
櫛。丁。の。情。み。く。側。あ。の。置。お。た。る。が。母。よ。ま。子。と。い。ひ
る。ゆ。ま。は。ぬ。は。と。え。の。ま。為。や。世。よ。あ。ら。バ。世。継。の。男。子
と。り。く。ち。や。え。れ。女。子。の。形。お。育。ま。す。は。是。の。吉。保。の
竹。の。も。ま。が。夫。の。む。し。を。お。り。へ。是。由。皆。悉。用。縁。は。く。と。
悲。し。く。ら。を。作。る。る。う。膝。の。ま。は。抱。き。あげ。階。下。と。う。ち



口八

六三

ク



カ

白

長

兵

相

白

奴

加

見

顯

と

は

流

九

